

尿定性検査マスター

一般検査ベーシックマスター！

◎吉永 治代

尿定性検査は、通常は非侵襲的に採取した尿を使用するため患者の負担が少なく、1枚の尿試験紙から数分以内に実施項目によって腎臓、肝臓、脾臓、消化管、循環器、泌尿器、その他全身の状態などをスクリーニングできる簡便な検査である。必要に応じて、健康診断での異常の発見、初診患者の疾病の推測、治療中の患者における病態変化の観察、投与薬剤における副作用の確認などに利用される。

しかし、尿定性検査に用いる尿試験紙は、濾紙に試薬を染み込ませただけの簡単な構造であり、かつ、化学法が多く、検査結果はさまざまな原因により影響を受ける可能性がある。尿検体の採尿方法、膀胱貯留時間、尿検体の採取から提出までの時間、測定時の尿検体の温度、尿自体に含まれる患者自身の成分、服用により排泄された薬剤成分など、尿定性検査への影響因子は多岐にわたる。

また、尿定性検査の用手法である尿試験紙を尿に浸して読み取るディップ&リード方式では、検査手技の影響も軽視できない。尿検体の混和方法、試験紙ボトルの密栓、試験紙を尿検体に浸す時間、試験紙に付着している過剰尿の除去、試験紙の水平維持、尿に浸してからの試験紙の反応時間、判定時の光源量、目視判定の方法などが正しく行われていない場合には、検査結果へ影響を及ぼすことがある。

簡便な検査だけに軽視されがちである尿定性検査の正しい測定をするために必要なコツと、偽反応を確認する方法を、今回の一般検査ベーシックマスター！

「尿定性検査マスター」で会得して貰いたい。

堺咲花病院 エスアールエル検査室 Tel:072-296-7212